

色再現範囲を軸にしたディスプレイの変遷



表示デバイス

NTSCオリジナル蛍光体
フラスコ管 (CRT)

希土類蛍光体
フラスコ管 (CRT)

液晶ディスプレイ

RGB表色系

NTSC(BT.601)

sRGB(BT.709)

Adobe RGB

SHV(BT.2020)

- 1953年 NTSC規格制定

テレビは忠実な色再現から好ましい(記憶色)色再現へ!
(肌色がきれい、芝生の緑がきれい等)
また、日本では白の色温度もNTSCの規格から外れた。

- 1995年 Windows95 sRGB採用
- 1998年 sRGB IECで規格化
- 2012年 BT.2020規格化
- ・Adobe RGB ミアトビ社から発表

色再現範囲

NTSC

・ポインターカラー: 約90%

人間の視覚特性を基に出来るだけ理想的な色再現範囲を規格化した。制約条件は赤の蛍光体。

sRGB(BT.709) 2Kテレビ

色再現範囲は狭いが明るい希土類蛍光体をCRTに使用。

ポインターカラー包含率

ポインターカラー: 74.4%。最明色: 35.9%

Adobe RGB

ポインターカラー: 90.3%。最明色: 52.1%

BT.2020

99.9%。75.8% (最明色)

実物に近い色再現と質感の向上を期待して広い色域を採用(実現性は別)

